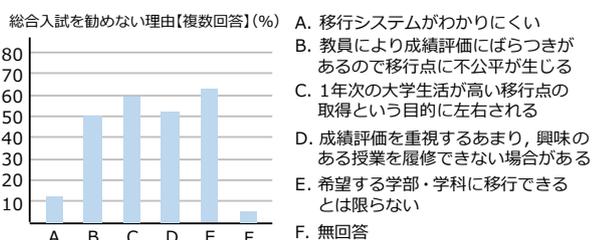




卒業年次アンケートに見る総合入試②

前号では「卒業年次アンケート2016」*の中から、後輩に総合入試を勧める理由についてお伝えしました。今回はそれに続き、同アンケートの後輩に総合入試を勧めない理由についての回答結果をお伝えします。
* 2017年1月12日～2月28日実施

【後輩から大学受験に関する相談を受けた場合、本学総合入試の受験を勧めるか】という設問に対し、「どちらかといえば勧めない」「勧めない」と回答した学生の中で、その理由を選択する設問(複数回答可)の回答結果を下図に示します。BからEまでのどの選択肢も約半数の学生から選ばれています。



自由記述欄で最も多かったのはEに関する内容でした:

「志望先に行けるとは限らない。<法・学部別>」
「専門的に優れたものを持っていても、それを活かす学部に行けない可能性がある。<理・総合>」
確かに、志望学部以外の学部への進学は考えられないという場合には、総合入試での入学はリスクを背負うことになってしまうかもしれません。

Eについて言及が多かったのはCに関する内容です:

「移行点を高くするために必要最低限の単位数だけを取得すると<幅広い教養を身につけること>は困難になる。<工・総合>」
「部活やサークル活動との両立が難しくなる。<農・学部別>」

「GPAを上げることに一年間、固執してしまう<水・学部別>」
難易度の高い学部・学科を志望するため、部活・サークルやアルバイトを控える学生は多いと思います。しかし、優先順位をはっきりつけられていれば、学業以外の活動が学業にプラスに働く面(リフレッシュできるなど)もあるのではないのでしょうか。

そのほか、成績の取りやすい授業に学生が集中する、入試の前期日程でも学部別の枠を作るべき、1年次から専門を学べた方が良い、高校までにやりたい(学びたい)ことを決めるべき、などの記述も少なくありませんでした:

「高い点が取りやすい教養科目に人気殺到している。<経・学部別>」

「全て移行点重視の科目選択となり、結局楽に良い評価が得られるような授業に人が集中し、学ぶという目的を見失っている。<工・総合>」

「工・理・農などの学部では前期入試からだ総合入試からしか入れない。北大の特定の学部でやりたいことが決まっている人に対しては総合入試は合わない。<工・総合>」

「自分のやりたいことがわかっているのであれば、1年生の時間も有効に使える学部別入試の方が良い。<教・学部別>」

授業間の成績分布の差を気にする学生の声は依然根強いものがあります。また、各入試形態での募集人員の割り当てに疑問を感じる学生も一定数いるようです。

前号と合わせ、卒業年次アンケートの回答結果から、後輩に総合入試制度を勧める理由・勧めない理由について見てきました。制度を最大限に活用するためのヒント、あるいは気を付けるべきポイントを知ることができるのではないのでしょうか。

(浅賀圭祐)

注) 総合は総合入試、学部別は学部別入試による入学者を指す

スタッフの心象 第15回「至れり尽くせり」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

ちょっとした立ち話などで、当室の学習支援内容を学内の先生方に説明すると、「それは(学生にとって)至れり尽くせりですね。」とのお言葉を頂くことがあります。自分が学生の時にそんなサポートなんて無かった、との思いから(おそらく肯定的に)発せられる言葉なのだと思います。しかし、穿った見方をすれば、この言葉は皮肉とも取れるので、一瞬、反応に困ってしまいます。学生に対し学びに対する受け身な姿勢を助長してはいないか、という訳です。

確かに学習支援という行為は、やりようによってはむしろ相手の主体的な思考、あるいは問題と格闘し(良い意味で)苦しむ機会を奪ってしまう可能性があります。そのような支援は学生にとって楽をできる場所となってしまうので、無い方がマシです。そうならないように常に注意を払うのは言わずもがなで、前提の部分に誤解が無いか確認し、知らなければ分からない類の知

識はすぐに説明し、学生が正しく思考を進める・問題と格闘できるようするのが、学習支援に携わる者の役割です。

しかしながら、実際のところは、学生自身、学習支援を利用する上で大事な事をよくわきまえていると見受けられることが多々あります。質問のあった部分を解説し、話の流れで少し先の部分も説明しようとする、「あ、そこはまだいいです。自分で考えて、分からなかったらまた来ます。」と質問を切り上げる学生もいます。

本を読む、音楽を聴くなどは、一見すると受動的な行為ですが、実はとても能動的な行為なのだという話を本で読んだことがあります。もちろん学生の様子は様々ですが、主体的な学習意欲があるからこそ学習支援を利用できる、というのも一理あるように思います。

(浅賀圭祐)



☆ラーサポ ベストラーナーシリーズ☆

ラーサポを何度も利用し、かつ優秀な成績を修めた学生を“ラーサポ ベストラーナー”と称し、勉強への取り組み方や進路決定にまつわる紆余曲折などを綴って頂きます。

今回のベストラーナーは、LSO開室以来、学習サポートを最も利用し、入学時から強く志望していた農学部生物資源科学科への移行を果たした三和優吾さんです。

「総合理系を乗り切る作戦」

農学部生物資源科学科2年 三和優吾



1年生の時は勉強でとても忙しかったです。移行の際にできるだけ選択の幅を広げたかったので、とにかく高い移行点を取ることが最大の関心事でした。周囲は上限単位数一杯まで授業を取る人が多かったですが、私は授業の数をなるべく絞り、少ない科目に集中することにしました。また、学期末にテストの数を増やすのは得策ではないと考え、レポートで評価をつける授業を優先して履修しました。そうすると自分の関心の無い科目を履修することになりますが、逆に自分の新しい興味や関心事を発見するきっかけになると考えました。実際、哲学の授業で人間とアニメキャラの本質的条件について考えたこと、アジア・太平洋戦史の授業で日本の朝鮮・満州統治がその土地の農業に与えた影響を知ったことは、自分の中でとても貴重な経験・知識となりました。私は高校で物理を学んでいなかったため、特に物理学Ⅰに苦しみ、ラーサポで質問を沢山しました。何度も質問する内に、自分の理解できている部分を相手に説明するイメージトレーニングを済ませてから質問するようになりました。この質問スタイルは今も役立っています。

2学期の負担を減らすため、夏休みは集中講義を取りました。夏休みは時間

があるので、質の高いレポートを提出できます。音楽に関する授業でしたが、その分野の入門書を読み込み、作曲家の思いや歴史的背景を踏まえたレポートを書いて高い評価を得ました。この授業をきっかけに、マーラー、ショスタコーヴィチ、ジョン・ケージなどを今でも愛聴しています。また、夏休みはフランス語の予習も頑張りました。その結果、2学期にフランス語演習基礎のテストで高得点を取ることができました(答案用紙にトレビアンと書かれていました)。生物学Ⅱの分類分野も予習したのですが、授業内容は人体の仕組みが中心だったため、予習効果は0でした。授業内容をきちんと踏まえた上で予習しなければならぬと痛感しました。

進路(移行先)について考え出すときりが無く、あまり時間をかけないようにしていましたが、自分の志望を決定的にしたのは今年の3月に読んだ朝日新聞の医薬品原料の栽培に関する記事でした。原料が絶滅の危機にあり栽培化の必要があるという記事で「この分野、面白いかも」と思い、薬学部と農学部を迷った末、農学部を志望しました。いつどこで自分の将来が決まるかわからないと思い知らされ、それ以来、心のアンテナを高く掲げることを意識しています。

2年生になってからは論文も読むことにも取り組んでいます。多くの論文は「近年、〇〇ということが問題になっていて、今までこのような研究が行われてきた。本研究では～」と始まるので、これらの記述を手がかりに勉強しています。また、医薬品の勉強のために漢方の勉強会に参加しています。常に柔軟である事を目標にしている(それが一番苦手でもある)ので、医薬品原料以外にも注目すべき自然物はないか、いつも探しています。

絶対に自分の専門に役立つであろう知識は、自分の予想の範囲でしか役に立ちません。自分の予測を遙かに超える発見と驚きに出会うため、私は雑学と周囲の人を大切にしています。人脈をつくる最も簡単な方法は、相手の名前を覚え、自分から挨拶をすることです。そして、人の信頼を得るのに遅刻は厳禁です。また、健康的に長生きしたいと思っています。長生きすれば現段階で自分より優れた人より活躍する可能性が残ります。体作りのために週に一度のランニング(30分)と日々の筋トレは欠かせません。そして、朝型で一定の生活リズム(休憩しすぎず、徹夜もしません)を心がけています。

退職のご挨拶

5年間、学習サポートの統括などを担当してきた清水 特定専門職員が退職します。

5年間という短い間でしたが、やりがいのある仕事でした。どうもありがとうございました。

LSO特定専門職員 清水 将英

編集後記

清水さんが退職されます。学習サポートの利用を年間延べ3000人の水準に引き上げたのは清水さんの尽力に負うところが大きいです。妥協せず本質を突き詰めるその姿勢は、これまでLSOを牽引してきました。本当にお疲れ様でした。

10月からは新スタッフを迎え、学修支援のさらなる充実に励んで参ります。

(浅賀圭祐)



ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/

次号は12月発行予定です